

JICA 基金活用事業 案件概要

I. 事業の概要	
1. 事業名称	南アフリカタウンシップエリアの聾学校でのインクルーシブアートワークショップ
2. 活動国・地域	南アフリカ共和国・ハウテン州
3. 事業分野	<input checked="" type="checkbox"/> 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業 <input type="checkbox"/> 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業
4. 事業の目標	創作活動を通じて、聾児が手話という言語と視覚文化に誇りを持ち、自らの経験や価値を社会に伝える力を身につけることで、「自らを語れる」存在として成長する。さらに、聾学校と地域社会との間に相互理解と対話の場が生まれることで、聾文化の社会的な可視化と共存の可能性が広がり、教育や社会参加の選択肢が広がっていく。
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	南アフリカの多くの聾学校では、特に貧困地域において、美術や創作活動を通じた自己表現の機会が制度的・物理的に限られている。教育資源の不足により、子どもたちは進学・就職の選択肢を持ちにくく、自立が困難な状況に置かれている。
6. 事業の意義・目的	視覚言語に適したアプローチである「アート教育」を導入し、手話を尊重するロールモデル（アーティストやASL関係者）と協働しながら、聾児が「自らの文化を肯定し、社会と対話する」経験を積む。創作活動を通じて、聾児が自らの経験や文化を肯定的に語れるようになり、教育的・社会的に包摂される環境が整う。
7. 主な対象者（受益者）	MCK Special School for the Deaf 対象学年：Grade RR（就学前）から Grade 9 生徒数：約 200-300 名、教員 30-40 名、 手話通訳あるいは聾学校教師志望学生数名
8. 実施期間	（西暦）2026年 02月～ 2026年 07月
9. 活動内容	1. 日本人アーティストと SASL 教育者及び手話通訳志望学生によるアートワークショップを実施 2. 自然素材を使った創作活動と発表会を通じた聾児自己表現支援 3. 聾学校のアート関連教員に対するアート教材開発
9. 事業費	807,500 円（予定上限額）
II. 団体の概要	
1. 実施団体	任意団体ポポ・エ・ペレ (Popo ea pele)
2. 主な活動内容	本団体は、国境を超えたアートと創作を通じて、地域コミュニティに資する価値創造を試み、長期的な関係を築くことで、地球規模のアイデンティティを生み出し、より平和な世界への貢献を目指す。主な活動はアートワークショップの開催、文化の発信、異文化交流、持続可能な創作活動の促進、地域の活性化など